

最 新

唱 歌 教 科 書

(伴 奏 附)



卒業の友を送る

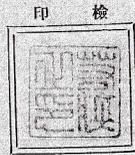
mf

トソロロニ  
モヨハシ  
にノ  
ゼノキ  
カ  
モナニ  
タヒタ  
アツア  
シキシ  
ノキン  
キカナ  
ニハ  
ニハ

ルカチ  
アミタ  
ハチコ  
モヨロ  
トシミ  
イモキ  
ニヨバ  
コロラ  
コヒア  
ヤヨモ  
イモリ  
イモチ  
テシキ  
ミにケ  
ゲレズ  
ハナシ  
メロ

ハハ  
イモタ  
ハハ  
イカオ  
ハハ  
ミハニ  
キリカ  
ノハ  
ルミヒ  
サモ  
カオ  
キモ  
シシ  
ニツリ  
ヤダハ  
アハカ

昭和貳年三月二十日印刷  
昭和貳年四月一日發行



不許  
複製

編 纂 者 若 狹 萬 次 郎

印 刷 者 山 中 壽 一

印 刷 所 大 阪 市 東 區 北 濱 三 丁 目 二 〇 番 地 一 山 中 金 龍 堂

發 行 所 大 阪 市 西 區 北 堀 江 通 一 丁 目 日 本 樂 器 製 造 株 式 會 社

代 表 者 刀 原 四 郎

定 價 金 壹 圓 五 十 錢

○春の姿秋の姿

八波 則吉

一、川沿町 蛇の目のからかさ

雨に煙る 柳並木

二、ほのかに見ゆ 擬寶珠のそり橋

繪にも似たり 春の朝

三、月澄む庭 虫の音 しきるよ

チリ、リ、リ、リ、リ、チリ、

四、更けゆく空 物の音 さゆるよ

ラ、リ、ラ、リ、ラ、ラ、

○鶯

犬童 球溪

一、深山の古巢をこくくいでて

ほくほくめたる軒ばの梅に

こゑもはがらにうたふ鶯

來る春忘れぬ やさしの鳥よ

二、幸ある此世の一年なれど

再び來らん春こそなけれ  
梅の花びら散らさんほごに  
その聲たねせず うたへやうたへ

○旭の旗

犬童 球溪

一、み空に輝やく旭のみ旗に、み國の榮ゆる  
姿は見ねたり。

見よや見よや白地圓かに、赤く染めて四方を照す。

仰げや人よ、かざせ友よ、旭の光り輝く  
所、かざせ日の旗。守れ日の旗。

二、旭にきらめくみ國のみ旗に、いきほひ溢  
るゝ其さま見ねたり。

見よや見よや赤き心を圓くそめて、國を  
守る

仰げや人よかざせ友よ、御國の民の到ら  
ん所、かざせ日の旗。守れ日の旗。

○幼 兒

犬童 球溪

一、眠れる幼兒何を夢みる

ほくほく其の顔その口もと

現世に降れる御神の使ひか

愛らしこれなる幼兒

二、笑へる幼兒何を喜ぶ

涼しき其のこゑそのふるまひ

眞玉の眼に映るは希望か

愛らしこれなる幼兒

○あがる雲雀

犬童 球溪

一、嗚呼み空に高く あがる雲雀よ

嗚呼この世の汚れ避けてのぼるか。

二、嗚呼雲居に高く あがる雲雀よ

あゝ遙けき希望遠ぐこのぼるか。

三、嗚呼この世の人よ かれを學びて

あゝ心は清く希望遠げく。

○雲 雀

犬童 球溪

一、緑の若草しとねにしきて

霞のみ空を歌ひつ舞ひつ

のはりて下りて一日を送る

そのかけ幽けき春野のひばり

あゝゝ雲の上のあゝゝ星の世界の

天なる不思議を探るかひばり

あれゝゝ重なる雲間を分けつゝ

早やも其のかけ見ねすなれど

あはれ聲のみ空にのこる。

二、重なる白雲翼に分けて

のぼりしそのかけ見つつし居れば

急ぎて落ちくるかけ勇ましく

其聲樂しき春野のひばり

あゝゝ雲の上のあゝゝ星の世界の

不思議を探りて歸るかひばり

あれゝゝ見るまに向ひの丘なる

茂る小藪に見ねすなれど

あはれ聲のみ空に聞ゆ

くさくさ語れや天の不思議。

○幸福ある國

犬童 球溪

一、かざせ、かざせ、輝やく日の旗

樹てよゝ輝やく日の旗

心一つに 力協せて 汚すな日の旗

旭の旗 護れや日の旗旭の旗

見よゝゝ 旭の旗 汚すな日の旗

旭の旗 護れや日の旗旭の旗

二、愛でよゝゝ み山の櫻を

慕へゝゝ深山の櫻を

大和心の花と匂へり 學べよみ山の櫻

の花 讀へよみ山の櫻の花

見よゝゝ 櫻の花 學べよみ山の櫻

の花 讀へよみ山の櫻の花

三、仰げゝゝ秀づる富士の嶺

見よやゝゝ秀づる富士の嶺

比ひ又無き清き姿ぞ 崇高き心を

共に學べ清けき姿を共に習へ

見よゝゝ 富士の高嶺け高き心を

共に學べ清けき姿を共に習へ

○谷間の一つ家

八波 則吉

一、しののめの やぶかけ

みそさざい 鳴くよ

お背所の はねつるべ

かさこそと うごく 谷間の一つ家。

二、たそがれの さかみち

ふるぎつね 鳴くよ

お母屋 のつりランプ

ほそぼそと さもる 谷間の一つ家。